

会見小だより

令和4年8月24日

第6号

南部町立会見小学校

夢や希望をもち 仲間と共に努力する 会見の子

互いに聴き合い「人も自分も大切に」する2学期に

校長 森川 寿子

32日間の夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に帰ってきました。リモートで行った始業式では、お互いの思いや考えを「聴く」、そして「聴き合う」ことで今年度のテーマ「人も自分も大切に」を形にしてほしいと話しました。

1学期末に本校児童を対象に行ったアンケートの結果を見ると、「友だちや先生の話最後まで聞いている」という問いに、とても当てはまる・当てはまると肯定的に答えた人が89%と、「聞くこと」を大切にしている児童がたくさんいることをうれしく思いました。半面、気になるアンケート結果もありました。「自分の考えを発表することが好き」という問いにプラスの答えをした人が53%と少なかったのです。そこで、2学期は「聞く」ことから一歩進んで「聴く」こと、そして「聴き合う」ことを意識してほしいと思っています。

「聞く」と「聴く」とはどのような違いがあるのでしょうか。辞書(広辞苑)によれば「広く一般には『聞く』を使い、注意深く耳を傾ける場合に『聴く』を使う」と書かれています。「聞く」という漢字は、「門」と「耳」からできています。「門」は出入口を表します。つまり、聞こうとしなくても、よそ見をしていても「耳」から入ってくる言葉、声、音などを「耳」で「聞く」ことができます。でも、「耳」と「十」「目」「心」からできている「聴く」では、「耳」で聞くだけでなく、それに「目」と「心」を働かせてしっかり「聴く」ことが必要です。

「聴く」ということは、話す人に心に向け、その思いや考えを受けとめるということです。思いや考えを受けとめることは、相手を認め、大切にすることにつながります。聴く人の「聴こう」とする態度や心は、話す人に安心感を与えることでしょう。それにより話す人は、自分の思いや考えを素直に話すことができます。

伝え合うこと、コミュニケーションの基本は「聴く」こと、そして「聴き合う」ことから始まるのではないのでしょうか。まずは話す人の方に体を向け、どんな表情で伝えようとしているのかその様子をしっかりと見、心を動かしながら聴いて反応する、そんな「聴く」「聴き合う」姿を大切にしていきたいです。

私たち教職員も、子どもたちの声をしっかりと聴くとともに、「聴き合う」仲間づくり・授業づくりに努めていきたいと思えます。

新型コロナウイルス感染症の第7波による影響が大きかったこの夏、なにかと窮屈な思いをしながら過ごした人が多かったことでしょう。新学期もまだまだ予断を許さない状況が続きます。今学期も学校教育目標と今年度のテーマを大切に、感染症対策と子どもたちの学びの両立に努めたいと気を引き締めているところです。2学期も、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



2学期のスタートにあたり…

コロナウィルス感染症への対応について



○授業について

- ・教室内では給食時など必要なときを除き、マスクを着用します。
- ・家庭科の調理実習、音楽科の歌唱やリコーダー奏等は、可能な限りの感染防止対策を徹底した上で、時期や状況を見て実施します。
- ・体育の授業では、距離を取るなどの対策を取りながら、必要なときには、マスクをはずします。

○学校行事、学年の校外学習について

- ・学校全体に関わる行事(学習発表会や参観日)は実施内容や参観者の制限など、感染予防を第一として実施の有無や方法を判断します。校外学習についても、行き先や活動内容の状況を精査して、判断を行います。

○出欠の取り扱い変更について

- ・児童に発熱等の風邪の症状がある場合は、登校を控えてください。
- ・同居の家族等に発熱等の症状がある場合も、児童の登校は控えてください。
- ・児童や同居家族が保健所の指示等によりPCR検査を受ける場合は、必ず学校に一報いただき、登校を控えてください。また、検査結果も必ずお知らせください。

○登校について

- ・「密」を避けるために、集団登校は今後も当面行いません。
- ・熱中症が心配される日の登下校時は、熱中症予防のためにマスクを着用しないでもよいです。
- ・ただし、マスクをしない場合は、友だちとの距離をしっかりと保つか、会話をしないようにすることを学校でも指導しますので、ご家庭でも話をしてください。



【着任のお知らせ】

産前休暇に入られた3組担任築谷佳苗先生の代わりに、日吉津小学校から武田奈々先生にお願いいただきました。よろしくお願いいたします。



サインをいただきました！

夏休み中の職員研修で、ノートルダム清心女子大学の伊木宏先生と村中李衣先生にブックコミュニケーションの勉強をさせていただきました。村中先生は、4年生の国語教科書に掲載されている「走れ」という物語の作者でもあります。先生の著書である「走れ」と「体育がある」の2冊に、会見小学校の児童に向けてサインをいただきました。また、4年生が書いた、「走れ」の感想文もプレゼントし、読んでいただきました。しばらくの間児童玄関に掲示しますので、学校にいらっしゃる機会がありましたら、ぜひご覧ください。



※この夏も、保護者の皆様、CSの皆様、芝刈り・草とり等の環境整備をお世話になりました。暑い中、本当にありがとうございました。